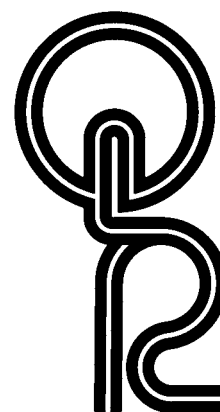


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 28 No.3, 2021



山梨県都留市北部にて、桂川（相模川）の流れが作り出した造形の妙。「爪先」は新第三系の凝灰角礫岩、「足首」は約2万年前の富士相模川泥流堆積物、「脛から上」は約1万年前の猿橋溶岩から成る。水面から崖上までの比高は約12m。（撮影：宇津川喬子）

Vol. 28 No. 3

June 1, 2021

2021年大会案内（第5報）..... 2	執行部会議事録..... 9
役員選挙結果報告..... 4	学生会員継続届け提出のお願い（再掲）..... 11
評議員会開催予定について..... 7	会員消息..... 11
評議員会議事録..... 7	

◆日本第四紀学会 2021年大会案内（第5報）

本大会は、新型コロナウイルス感染対策のためオンラインのみで実施することとなりました。大会の準備と開催は学会執行部と大阪大会 LOC が連携して行います。

一般研究発表（口頭およびポスター）、公開シンポジウム（第4報からテーマなど変更となりました）のほか、オンライン巡検を企画しています。講演申し込み等につきましては、昨年末の2020年大会と同様、オンラインで行います。たくさんの皆様のご参加、ご発表をお待ちしています。なお、懇親会は開催しませんので、ご了承ください。

1. スケジュール

- ・開催日程 2021年8月27日（金）～8月29日（日）
 - 8月27日（金）一般研究発表（口頭およびポスター）
 - 8月28日（土）一般研究発表（口頭およびポスター）、総会・各賞授賞式
 - 8月29日（日）午前：シンポジウム、終了後にオンライン巡検概要説明
- ・一般研究発表の申し込み・講演要旨原稿提出締め切り：6月18日（金）17時
- ・シンポジウムの講演要旨原稿提出締め切り：6月18日（金）17時
- ・参加申し込み締め切り：8月20日（金）17時
- ・プログラム公開：7月30日（金）（予定）

2. 発表方法

発表はすべて Zoom を用いて行います。

3. 公開シンポジウム「近畿における歴史時代の自然環境（仮題）」

人類誕生から現在まで、自然環境や自然資源は時代により様々な用途や目的に人類によって利用されてきました。こうした中で、歴史時代は自然環境に人類が大きく影響を与える以前と都市文明が発達した現代の間に位置し、自然利用や自然改変の規模・利用法が大きく変化した時代にあたります。本シンポジウムでは、古くから政治や文化の中心であった近畿地方の歴史時代の遺跡などの資料を中心に、地形や地質などを含めた自然環境や自然資源を人々がどのように利用してきたのか、またそれぞれの時代の自然環境などについて様々な視点から紹介したいと思います。

4. 専門巡検（オンライン巡検）「大阪の津波碑と地盤沈下地帯」

日時：8月29日（日）シンポジウム終了後にオンライン巡検について説明します（15分程度）。

案内者：三田村宗樹（大阪市立大）

見学内容：大阪を代表する繁華街の一つ道頓堀から、淀川河口の一つ木津川を経て大阪市大正区・港区をめぐる。安政南海地震津波に関わる大地震両川口津波記、防潮堤、防潮水門、地盤かさ上げなどの地盤沈下対策やデルタの街ならではの渡し船などを紹介します。このオンライン巡検は、Webサイトの地図の見学地点毎に示したビデオ説明を視聴してもらう方法で実施します。

5. 各種申し込みと講演要旨原稿の送付方法

1) 一般研究発表の申し込み

(1) 発表者の資格と発表件数の制限

一般研究発表には、口頭発表とポスター発表があります。筆頭発表者（資格は会員であること）としては、口頭発表およびポスター発表について、それぞれ1人1件の発表申し込みが可能です。

(2) 発表形式と発表時間

発表形式は、口頭発表（オーラルセッション）およびポスター発表（ポスターセッション）がありますので、発表申込用紙で希望する方を選択してください。発表件数によっては、必ずしも希望の形式

にならない場合もありますので、あらかじめご了承ください。口頭発表（オーラルセッション）の時間は1件15分程度（質疑応答時間含む）を予定しています（発表件数によって変更の可能性があります）。

(3) 参加・発表申込と講演要旨の提出方法

- ・大会参加には事前申し込みが必要です。また、発表を行うには講演要旨の提出が必要です。
- ・参加・発表の申し込みは、学会HPにリンクした専用サイトから行います。URLは<https://sites.google.com/view/2021jaqua/>の予定です。準備でき次第学会HP等でご案内します。
- ・日本第四紀学会会員以外の方の投稿は、今回行うシンポジウムに限ります。
- ・非会員の方で筆頭著者として一般発表を希望される場合は、至急入会手続きをお願いします。日本第四紀学会への入会手続きは、学会HP「入会・登録情報変更」をご覧ください。
- ・要旨・ポスターの投稿はDropboxを使って行います（専用サイト内に要旨提出用サイトへのリンクがあります）。
- ・講演要旨のテンプレートは5月下旬から学会HPおよび専用サイトよりダウンロード可能とします。
- ・講演要旨集は大会前に専用サイトからダウンロードできるようにします。
- ・講演要旨の原稿はA4で1ページ(図表掲載可)です。学会HP「2021年大会」のページ等でダウンロードできる「講演要旨原稿の書き方及びテンプレート」にある書き方にそって作成してください。講演要旨作成の際、テンプレートのフォントや行数などの設定は変更しないようにしてください。
- ・本学会員のうち2021年8月1日現在で39歳以下の方は若手発表賞に、学生・大学院生の方は学生発表賞にエントリーできます。エントリー希望の方は、申込書の該当箇所に記入してください。積極的なエントリーを期待しています。

(4) 参加・発表申込と講演要旨の提出の締め切り

- ・一般研究発表の申し込み・講演要旨原稿提出締め切りは6月18日（金）17時です。
- ・参加申し込みは、8月20日（金）17時まで受け付けています。

2) 総会委任状について

8月28日（土）午後に開催する総会の委任状も専用サイトから提出できます。大会不参加の会員及び大会には参加するが総会は欠席予定の会員には、総会委任状の提出をお願いします。

6. 大会・巡検の参加費

無料とします。

7. 大会実行委員会および行事委員会

大会実行委員長：三田村宗樹（大阪市立大）

実行委員：井上 淳（大阪市立大）、中条武司・石井陽子（以上、大阪市立自然史博物館）、久保田好美・齋藤めぐみ（以上、国立科学博物館）

行事委員会：藤原 治（産総研）・池原 実（高知大）・井上 淳（大阪市立大）・岡田 誠（茨城大）・目代邦康（東北学院大）

連絡先：2021年大会実行委員会事務局

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学大学院理学研究科 三田村宗樹

TEL：06-6605-2592、メール：mitamura@osaka-cu.ac.jp

大会用メールアドレス：jaqua2021@gmail.com（atを@に変える）

◆役員選挙結果報告

2021年5月7日

日本第四紀学会会長
齋藤文紀 殿

日本第四紀学会 2021-2022 年度役員選挙結果の報告（答申）

日本第四紀学会選挙管理委員会 委員長 杉戸信彦
委員 石輪健樹
委員 佐藤善輝
委員 納谷友規
委員 橋詰 潤

日本第四紀学会会則第 11 条、第 12 条および役員選挙規程に基づき、2021-2022 年度の役員選挙を行いました。経過、結果、ならびに今回の選挙に関するコメントを報告いたします。

1. 経過

- 1) 第 1 回委員会を 2 月 16 日(火)に開催した。方法は Zoom を用いたウェブ会議(学会アカウントを使用)とした。委員会成立を確認した後、委員会構成と連絡先、会則および役員選挙規程、選挙人の数、被選挙権を有しない正会員（選挙種別ごと）、評議員の領域別定数、選挙日程と方法、ウェブ投票システム、会報および学会 HP・ML による選挙案内などについて確認を行った。また、ウェブ投票が難しい選挙人のため、投票用紙を利用した郵便による投票も実施することを確認した。
- 2) 「役員選挙の実施と候補者受付について（会告）」および各種届出様式について確認を行い確定した。
- 3) 以下の日程で選挙を実施することとした。
 - 3 月 3 日（水）：「役員選挙の実施と候補者受付について（会告）」の発送、同会告および各種届出様式の会員マイページへの掲載
 - 3 月 22 日（月）：立候補・推薦届出書の受付締め切り、郵便投票事前申請の締め切り
 - 3 月 29 日（月）：候補者辞退届の受付締め切り
 - 4 月 6 日（火）：郵便投票申請者への投票関係書類発送
 - 4 月 7 日（水）午前：「役員選挙候補者受付結果と選挙実施について（会告）」および候補者名簿・評議員被選挙人名簿の会員マイページへの掲載
 - 4 月 7 日（水）正午：ウェブ投票の開始
 - 4 月 26 日（月）正午：ウェブ投票の締め切り
 - 4 月 26 日（月）：郵便投票の締め切り（必着）
 - 4 月 28 日（水）または 30 日（金）：郵便投票の開票
 - 4 月 30 日（金）：ウェブ投票結果および郵便投票結果の確認、当選人と次点者の確定
- 4) 3 月 22 日（月）に立候補・推薦届出書提出を締め切った後、本人確認を行い、候補者および推薦者に候補者一覧表を送付した。その後 3 月 29 日（月）に候補者辞退届提出を締め切った。候補者辞退届は提出されなかった。会長候補者は 1 名、副会長候補者は 2 名と確定し、それぞれ定数以内であるため無投票当選となった。そのため投票は評議員の選出のみを対象とすることとなった。また、郵便投票の事前申請（3 月 22 日（月）締め切り）はなく、ウェブ投票のみを実施することとなった。
- 5) 4 月 7 日（水）正午から 4 月 26 日（月）正午まで、評議員の選出を対象としたウェブ投票を会員マイページにて実施した。
- 6) 選挙実施に際しては広報委員会に依頼して 13 回の案内を行い、立候補・推薦、および投票を呼びかけた。

- 7) 第2回委員会を4月30日(金)に開催した。方法はZoomを用いたウェブ会議(学会アカウントを使用)とした。委員会成立を確認した後、ウェブ投票結果の確認を行い、当選人と次点者を確定した。答申についても検討を行い、その後確定した。
- 8) 選挙権(投票権)をもつ正会員831名のうち130名から投票があった(うち7名は白票)。投票率は15.6%であった。領域別の投票率は、領域1が9.67%(投票数482/投票枠数4,986)、領域2が7.99%(投票数664/投票枠数8,310)、領域3が7.58%(投票数441/投票枠数5,817)、領域4が7.88%(投票数589/投票枠数7,479)、領域5が6.79%(投票数395/投票枠数5,817)であった。領域1の投票率がやや高い要因として、候補者数が多かったことを指摘できる。

2. 立候補・推薦候補者の受付結果(受付順・50音順)

それぞれの役職に対して、下記会員からの立候補・推薦があった。会長候補者、副会長候補者はそれぞれ定数以内であり、無投票当選となった。

1) 会長(定数1名)

鈴木毅彦(領域3、推薦、推薦者:齋藤文紀・高原 光)・・・無投票当選

2) 副会長(定数2名)

北村晃寿(領域4、推薦、推薦者:鈴木毅彦・水野清秀)・・・無投票当選

須貝俊彦(領域2、推薦、推薦者:鈴木毅彦・高原 光)・・・無投票当選

3) 評議員

領域1(定数6名)

Obrochta Stephen Phillip(オブラクタ スティーブン フィリップ)(立候補)、平林頌子(立候補)、加 三千宣(推薦、推薦者:横山祐典・石澤堯史)、久保田好美(推薦、推薦者:横山祐典・オブラクタ スティーブン フィリップ)、坂下 涉(推薦、推薦者:宮入陽介・オブラクタ スティーブン フィリップ)、田村 亨(推薦、推薦者:宮入陽介・横山祐典)

領域2(定数10名)

なし

領域3(定数7名)

水野清秀(立候補)

領域4(定数9名)

なし

領域5(定数7名)

なし

3. 評議員選挙当選人

選挙の結果、下記会員が当選となった。次点者を含めて報告する(50音順)。

領域1(気候変動及び海洋の諸プロセス):定数6名

Obrochta Stephen Phillip、久保田好美、加 三千宣、坂下 涉、田村 亨、平林頌子、(次点)池原 研

領域2(陸上の諸プロセス):定数10名

吾妻 崇、石村大輔、奥野 充、苅谷愛彦、久保純子、佐藤善輝、穴倉正展、丹羽雄一、藤原 治、堀 和明、(次点)小口 高

領域3(層序と年代基準):定数7名

青木かおり、卜部厚志、岡田 誠、菅沼悠介、長橋良隆、兵頭政幸、水野清秀、(次点)下岡順直

領域4(人類と生物圏):定数9名

井上 淳、江口誠一、海部陽介、工藤雄一郎、齋藤めぐみ、高原 光、中塚 武、那須浩郎、百原新、(次点)佐々木由香

領域5(現代社会に関わる第四紀学):定数7名

石原与四郎、植木岳雪、小荒井 衛、前李英明、三田村宗樹、目代邦康、山田和芳、(次点)香月興太

4. 役員選挙（事務）に関するコメント

- 1) 選挙権・被選挙権について、所属領域の登録が条件となることを役員選挙規程に明記するよう検討していただきたい。現状、所属領域未登録者は、評議員選挙に関し、所属領域と他の領域で投票のポイントが異なる（役員選挙規程第22条第4項）、また所属領域ごとに選出される（役員選挙規程第22条第5項・第6項）ため、実質的に選挙権も被選挙権も有しないと判断される。会長・副会長選挙については、執行部会等での役職分担に領域が関わることを根拠として、実質的に選挙権も被選挙権も有しないと判断している。
- 2) 評議員領域別定数の根拠となる領域別正会員数について、前回と同様、2月1日時点における当該年度の会費納入状況を不問として数えることとした。会費納入状況に関する記載が役員選挙規程にないためである。しかし、役員選挙規程第15条によると会費未納者は選挙権・被選挙権を有しない。この点について議論が必要であると考えられる。
- 3) 役員選挙規程第22条第5項「正会員数が151名以上の領域・・・25名につき評議員を1名とする」の「25名につき評議員を1名とする」を、たとえば「25名を数えるごとに評議員を1名とする」や「正会員数を25で割った商（小数点以下切り捨て）を定数とする」とするよう検討していただきたい。「151～175名なら7名、176～200名なら8名」との誤解を招く可能性が考えられる。
- 4) 各種届出様式の入手について、学会HPの専用ページ（会告にID・PWを掲載）より入手する方式から、会員マイページより入手する方式に変更し、選挙関連情報は会員マイページに集約された。変更之际、会員マイページの説明が会報第28巻1号にあること、学会からの郵便物（会告を含む）の宛名欄に会員番号が記載されていること、パスワードはログイン画面から再設定できることなどを、会告の発送前に、学会HPやMLで周知したほか、会員番号が学会からの郵便物の宛名欄に記載されている旨をログイン画面にも掲載した。
- 5) 各種届出様式は従来ものを踏襲した。本人確認のため「会員マイページ」において会員情報を更新するよう会告にて呼びかけた。照合して一致しない場合、確認が難航する可能性があり、様式中にも更新を促す注意書きを記すなど徹底が望まれる。関連して推薦届出書については推薦者の所属機関名の記入も検討すべきである。推薦届出書に関しては、個人情報のため候補者生年月日を確認できないこともあるとの問い合わせがあり、候補者になることを本人が承諾済であることを示す文書の提出を求めた。この点に関し、たとえば推薦届出書提出メールの送信時に必ず候補者にCcを送る方法が考えられる（提出者以外の推薦者についても同様）。また現状、推薦文に推薦者名を含めており、推薦者名の字数によって推薦文本体の字数が増減する。たとえば候補者名簿に推薦者名の列を追加し、推薦文には推薦者名を含めない方法が考えられる。
- 6) 各種届出様式の提出方法をE-mailのみとした。様式入手の段階でウェブ経由を前提としており、また前回から自署欄がなくなってFAX利用が想定されないためである。郵便投票申請先と問い合わせ先についてはE-mailとFAXの両者を掲載した。
- 7) 評議員選挙の候補者数は領域1以外で低調であった。役員就任状況の関係で被選挙権を有しない正会員が多かったことは一因として挙げられる。会報第28巻1号にてあらかじめ立候補・推薦を促したほか、受付開始時の会告から受付締め切りまでの期間を長くし、学会HP・MLで候補者受付や会員マイページに関する案内を行ったが、立候補・推薦を促す案内をその年の会報第1号に別紙にて同封するなど、さらなる工夫も検討する必要がある。また学会として何らかの対策が必要であると考えられる。
- 8) 評議員選挙の投票率は15.6%であり、前回の投票率（13.3%）と比較してやや高かった。投票者数の増加に加え、選挙権（投票権）をもつ正会員数の減少の結果である点には注意が必要である。前々回の投票率（23.4%）と比べて低い状況が続いている。引き続き、会員マイページのログイン方法を繰り返して周知する、投票意欲をもつ会員が選挙権を失わないよう会費納入を呼びかける、選挙関連情報の周知徹底のためMLへの登録を呼びかけるなどの取り組みを行うと同時に、今回見送られた投票開始時の会告の印刷・郵送も選択肢のひとつとして挙げられる。その場合には印刷・発送に必要な日数を考慮して選挙日程を検討する必要がある。

以上

注) 通信記事用に答申の一部を簡略化し、名前の表記を統一した。

◆ 2020 年度第 3 回評議員会の開催予定について

日本第四紀学会 2020 年度第 3 回評議員会を 6 月中・下旬頃、オンラインにて開催する予定です。評議員の皆様におかれましては、ご出席のほどよろしくお願ひいたします。詳細が決まりましたら、評議員会 ML にてお知らせします。また、名誉会員には、事前に文書にてお知らせします。

日時：2021 年 6 月中・下旬頃 2 時間程度

方法：Zoom システムを用いたオンライン会議

議事（予定）

- (1) 2021 年学会賞・学術賞・若手学術賞の受賞者選考について
- (2) 2021 年論文賞・奨励賞の受賞者・受賞論文選考について
- (3) オンライン委員会（特別委員会）の設置提案
- (4) 2021～2022 年度における執行部会等の体制について
- (5) その他

◆ 日本第四紀学会 2020 年度第 1 回電磁的な評議員会議事録

執行部会から第四紀研究投稿規定について、引用文献の文字の大きさ等の変更、電子付録を J-STAGE Data でも公開するという、下記 2 点の改正提案があり、2021 年 4 月 1 日～4 月 7 日の間、電磁的な評議員会を開催し、メール審議を行った。会長・副会長および評議員総数 44 名のうち会議成立要件である 2 分の 1 以上の 30 名から返信があり、賛成多数により、審議事項は承認された。また、兵頭政幸評議員会議長・須貝俊彦議長代理から審議結果の報告があった 4 月 8 日を改正日とした。

1. 第四紀研究投稿規定の変更に関して

1-1. 引用文献の文字サイズの変更

研究の進展に伴い、引用文献数が増加する傾向にあり、ページ超過の可能性が高くなっている。多くの国際誌では、引用文献の文字サイズを本文よりも小さくし、1 行当たりの文字数を増やした体裁がみられるので、第四紀研究でも同様にすること、ならびに、これに付随した以下の投稿規定の変更を提案する。なお、この変更に関する経費は発生しない。

第四紀研究投稿規定 2-3. 原稿の長さ：

< 現行 >

・・・なお、刷上り 1 ページは 25 字×43 行×2 段である。・・・

< 改正案 >

(下線部が変更箇所)

・・・なお、刷上り 1 ページは引用文献を除くと 25 字×43 行×2 段で、引用文献は 28 字×62 行×2 段である。・・・

1-2. J-STAGE Data の利用

第四紀研究の電子付録は、本学会のサーバーにデータを置いている。これに加えて、電子付録を「J-STAGE Data」で公開を開始し、本誌の発信力を強化する。J-STAGE Data (<https://jstagedata.jst.go.jp/>) とは、J-STAGE の掲載記事に関連するデータを登載・公開するデータリポジトリであり、2020 年 3 月よりパイロット運用を実施し、2021 年 3 月 25 日より本格運用に移行した。データのセキュリティーは実績のある英国の会社が行っており、1 誌につき 100GB の容量だが調整できる。将来有償化されたとしても、それ以前のデータは掲載され続ける。

第四紀研究投稿規定 2-4. 電子付録：

< 現行 >

著者の申し出があり、かつ別途定める第四紀研究電子付録掲載要項に基づいて編集委員会が適当と判断する場合、原稿の掲載にあわせて、原稿の内容の一部を第四紀研究電子付録として日本第四紀学会ホームページに掲載することができる。

< 改正案 >

(下線部が変更箇所)

著者の申し出があり、かつ別途定める第四紀研究電子付録掲載要項に基づいて編集委員会が適当と判断する場合、原稿の掲載にあわせて、原稿の内容の一部を第四紀研究電子付録として日本第四紀学会ホームページと J-STAGE Data に掲載することができる。

2. 第四紀研究電子付録掲載要項の改正について

J-STAGE Data の導入に伴い、改正する。

第四紀研究電子付録掲載要項

< 現行 >

5. 掲載と掲載後の変更

日本第四紀学会は、提出された電子ファイルを電子付録として日本第四紀学会ホームページの定められた場所に掲載する。編集委員会は、日本第四紀学会ホームページに掲載された電子付録につ

いて、内容の変更を伴わない表示形式等の変更以外、その内容の変更は行わないが、掲載中止は行える。著者は掲載された電子付録の内容の変更を編集委員会に書面にて求めることができる。編集委員会は、求められた変更の妥当性を審査し、適当と判断した場合には内容を変更する。

< 改正案 >

(下線部が変更箇所)

5. 掲載と掲載後の変更

日本第四紀学会は、提出された電子ファイルを電子付録として日本第四紀学会ホームページと J-STAGE Data の定められた場所に掲載する。

6. 掲載後の変更

編集委員会は、日本第四紀学会ホームページに掲載された電子付録について、内容の変更を伴わない表示形式等の変更以外、その内容の変更は行わないが、掲載中止は行える。著者は掲載された電子付録の内容の変更を編集委員会に書面にて求めることができる。編集委員会は、求められた変更の妥当性を審査し、適当と判断した場合には内容を変更する。

※改正された第四紀研究投稿規定と第四紀研究電子付録掲載要項の全文は、本会ホームページ→学会誌→投稿規定 (<http://quaternary.jp/journals/toukou3.html>) 参照。

◆日本第四紀学会 2020 年度第 9 回執行部会議事録

日 時：2021 年 3 月 16 日（火） 13:00～16:30
 方 法：Zoom システムを使ったオンライン会議
 出席者：齋藤文紀（会長）、鈴木毅彦（副会長）、
 高原 光（副会長）、水野清秀（庶務）、
 齋藤めぐみ（会計）、北村晃寿（編集）、
 藤原 治（行事）、小荒井 衛（渉外）、
 横山祐典（領域 1）、奥村晃史（領域 2）、
 里口保文（領域 3）、工藤雄一郎（領域 4）
 オブザーバー：高橋尚志（庶務委員会）、目代邦康
 （行事委員会）

主な報告事項

- (1) 役員選挙の日程を確定し、会告を郵送した。会員マイページ内に立候補・推薦候補者届出フォームを置いた。
- (2) 著作権ポリシー提供依頼（オープンアクセスリポジトリ推進協会）に対し、出版物等利用規定に基づき、web 上でアンケートに回答した。また、「学協会における研究公正に関する取組と現状」調査アンケート依頼（研究代表者：大阪大学中村征樹准教授）に対し、学会の倫理憲章、投稿規定、法務委員会規程をもとに web 上で回答した。
- (3) 国立国会図書館インターネット資料収集保存事業における学会ホームページを通じての資料収集等に係る許諾依頼に対して、許諾の返答を行った。
- (4) web 上での学会入会フォーム・システムをほぼ確定させた。
- (5) 転載許可申請（1 件）に対しこれを許可した。
- (6) 第四紀研究第 60 巻第 2 号（論説 1 編）の印刷工程中。J-STAGE への早期公開日は 4 月の予定。
- (7) 3 月 15 日現在、受理済み原稿（書評を除く）は 2 編（60 巻第 3・4 号に掲載）、手持ち原稿は論説 10 編、短報 1 編、資料 2 編、講座 2 編である。
- (8) 「第四紀研究」の受理原稿は、印刷所への入稿後、2 カ月ほどで版組され、J-STAGE オンライン

公開システムで早期公開されることを会員 ML とホームページ等にて会員に周知した。

- (9) JST から「J-STAGE 利用機関 意向・満足度等アンケート」の協力願いがあり、回答した。
- (10) JpGU2021 大会で、「第四紀」は 6 月 5 日、2 コマ、口頭 10、ポスター 10 の発表。座長等の調整を行った。「活断層・古地震」は 6 月 4 日、2 コマ、口頭 9。
- (11) 防災学術連携体臨時総会に小荒井渉外委員長が出席した。社団法人にすることでは一致し、6 月末に新体制が決まる。

主な審議事項

- (1) 第四紀研究の電子付録は、本学会のサーバーにデータを置いているが、これに加えて「J-STAGE Data」で公開を開始し、本誌の発信力を強化することにした。
- (2) 「第四紀研究」の引用文献数が増加する傾向があることに伴い、引用文献の文字サイズと行間を小さくすることとし、そのサイズ案を執行部会で確定し、(1) とともに評議員会に諮ることにした。
- (3) 広報書記が長年使用しているノートパソコンが不調のため、新規購入することにした。
- (4) 第四紀学会が契約している Zoom アカウントを用いたオンライン会議を開く場合に、オンライン担当者が参加できない会議では、ホストとなる会議責任者又はその代理者はオンライン担当者と連絡を取って、自ら会議の設定・立ち上げを行うこと、不要な録画はその後削除することなどの基準を設けた。
- (5) オンライン委員会、学会運営検討委員会などの特別委員会の設置の必要性について議論し、問題点を整理して、次回再検討することにした。
- (6) 本会が宣伝普及のために作成した「第四紀とは」のパンフレットの内容が古くなったため、その改訂の予定について議論した。

◆日本第四紀学会 2020 年度第 10 回執行部会議事録

日 時：2021 年 4 月 19 日（月） 13:00～16:20

方 法：Zoom システムを使ったオンライン会議

出席者：齋藤文紀（会長）、鈴木毅彦（副会長）、
高原 光（副会長）、水野清秀（庶務）、
北村晃寿（編集）、藤原 治（行事）、白
井正明（広報）、小荒井 衛（渉外）、横
山祐典（領域 1）、奥村晃史（領域 2）、里
口保文（領域 3）、工藤雄一郎（領域 4）、
小森次郎（領域 5）

オブザーバー：三田村宗樹・井上 淳（大阪大会
実行委員会）、高橋尚志（庶務委員会）

主な報告事項

- (1) 役員選挙立候補・推薦を締め切った。会長・副会長推薦候補者は定数分あり、無投票当選が確定した。評議員は立候補 3 名、推薦候補 4 名。
- (2) 入会案内フォームを学会 HP からリンクを貼り、web 上で申請できるようにした。
- (3) 転載許可申請（1 件）があり、これを許可した。
- (4) 4 月 16 日現在、第四紀研究受理済み原稿（書評を除く）は 2 編（60 巻第 3・4 号に掲載）、手持ち原稿は論説 10 編、短報 2 編、資料 2 編、講座 1 編である。4 月 5 日に新規投稿があった。
- (5) 4 月 8 日の電磁的な評議員会で、第四紀研究投稿規定の変更と第四紀研究電子付録掲載要項の改正が承認された。これを受けて、学会ホームページの第四紀研究投稿規定と第四紀研究電子付録掲載要項の一部修正を行った。
- (6) 財務省からの令和 3 年 4 月 1 日以降の価格表示の告知に対応するため、第四紀研究の価格を第

2 号から、2,000 円（税抜）を 2,200 円（税込）に修正する。

(7) 日本ジオパーク学術支援連合準備会が 4 月 16 日に開催され、小森次郎領域 5 代表が出席した。今後第四紀学会が参画するか、検討する。

(8) 本会共催のシンポジウム「人新世国際標準模式地認定に向けた別府湾での取り組み」をオンラインで 3 月 27 日に実施し、約 60 名が参加した。

主な審議事項

- (1) 2021 年大会について、大阪大会実行委員会メンバーと議論し、以下の概要を決めた。新型コロナ対策のためオンライン開催とし、参加・発表登録は昨年同様、Google Forms などを用い、アルバイターを使って会員が運営を行う。参加費は無料とする。LOC の特色を出すために、シンポジウムの内容やオンラインでの普及講演、オンライン巡検について大阪を中心に検討する。講演要旨はホームページで公開する。
- (2) オンライン委員会の設置について再度検討を行い、第 3 回評議員会で提案し 2021 年度にスタートさせることを前提に、その具体案を次回執行部会で示すことにした。
- (3) 2021-2022 年度役員の分担会議や第 3 回評議員会など今後のスケジュールについて検討した。
- (4) 日本考古学協会からの学術会議に関わる共同声明および連絡網掲載等の依頼に対して議論し、共同声明については執行部会として参加、連絡網については名簿掲載のみとすることにした。

◆学生会員の皆さまへ「学生会員継続届け」提出のお願い（再掲）

日本第四紀学会では、学生会員は、毎年在籍中であることを「学生会員継続届け」として提出して頂くことになっています。

2021年度（2021年8月1日～2022年7月31日）を学生会員として継続希望される方は、A4判の用紙（様式自由・ワープロ使用）に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教官氏名を明記のうえ、指導教官の署名または捺印を添えてお送りいただくか、有効期限が明記された学生証のコピーを2021年6月18日（金）までに日本第四紀学会事務局まで郵送またはメール添付にてお送り下さい。本届が提出されない場合は、2021年度第1回目会費請求時に、正会員会費にて会費請求がされますので、ご注意ください。

また、日本学術振興会特別研究員（PD）や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問合先・送付先：〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル
日本第四紀学会事務局

E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com

TEL：03-5291-6231 / FAX：03-5291-2176

提出方法：郵便もしくはメール添付にてお送りください。

★★★ 第四紀学会に情報をお寄せください ★★★

日頃から日本第四紀学会のコミュニティへ情報提供くださり、ありがとうございます。提供された情報の円滑な配信を目指して、広報委員会から皆様へ、以下のお願いを致します。

- (1) 情報発信の手段として、ML の積極的な使用をお願いします。
 - 1) メール本文に配信内容のタイトルと簡単な情報を書いて広報委員会アドレス (jaqua-koho(at)quaternary.jp) へご投稿ください。
メール本文の情報は常識的な長さでお願い致します。
 - 2) 広報委員会にて文言の微修正を行う、または投稿した方に情報の修正・追加をお願いすることがあります。
 - 3) イベント等の周知などで当該イベントの URL がある場合、その URL も載せてください (ただし上記の通り、メール本文にも簡単な情報も載せるよう、お願い致します)。
 - 4) 第四紀学にほとんど関連しないものについては配信をお断りすることがあります。
 - 5) 学会、研究集会のお知らせでも、第四紀学会の会員間で参加費等に不平等が生じるものは配信しませんので、ご了承ください。
 - 6) 添付ファイルは ML に配信致しません。
- (2) 第四紀通信への掲載依頼、日本第四紀学会 HP への掲載依頼も受け付けておりますが、基本的に、主催・後援イベントなど第四紀学会として会員に広く周知する必要があると認められる情報、「公募・助成」情報 (こちらは HP のみの掲載となります) 等に限られます。詳しくは広報委員会アドレス宛に、個別にご相談ください。
- (3) 第四紀通信の表紙用の写真 (または作成した画像) を受け付けています。詳細は第四紀通信 27 巻 6 号の巻末をご覧ください。
- (4) 第四紀通信は偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報をなるべく早く皆様にお届けできるように、奇数月下旬に版下が完成した段階でホームページに掲載していますので、ご利用ください。

日本第四紀学会広報委員会：白井正明・オブラクタ スティーブン フィリップ・兵頭政幸・那須浩郎・植木岳雪
広報書記：岩本容子・奥村公弥子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF を閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル

株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176